雑　　報

定例研究報告会の開催

（昭和57年７月～９月）

＜回＞	＜年月日＞	＜報　告　題　名＞	＜報　告　者＞
昭和57年度			
13	昭57. 7. 7	人口の移動と定着――仙台・熊本を中心として――	内野 澄子 技官
14	昭57. 7. 14	研究所の今後の運営について	岡崎 陽一 技官
	〃	出生順位別にみた出生力の分析	石川　晃 技官
15	昭57. 9. 22	都道府県別女子人口再生産率：昭和55年――50年との比較	山口 喜一 技官 石川　晃 技官
	〃	都道府県別人口年齢（３大区分別）構造：国勢調査年次	山口 喜一 技官 山本 道子 技官
16	昭57. 9. 29	中国の人口政策・その後	若林 敬子 技官
	〃	全国の有配偶率で標準化した都道府県別合計特殊出生率：昭和55年――既往年次との比較	山口 喜一 技官 笠原里江子技官

昭和57年度実地調査（第８次出産力調査）の施行

本研究所においては，昭和57年度の実地調査として「第８次出産力調査」を６月１日現在で実施した．

出産力調査は，過去昭和15年に第１回の調査を実施して以来，戦後６回，都合７回の調査を実施してきたが，調査の狙いは，人口動態統計では把握できない夫婦の既往出生児数，出生間隔，出生目標，出生抑制手段などのデータを収集，分析することにあり，その結果は，戦後の出生力変動の要因解明，将来人口推計の基礎資料として役立てられてきた．

今回の調査の要綱を示すと次のとおりである．

〔調査の目的〕

人口動態統計などのデータでみると，わが国の出生率は昭和48年以降急激に低下している．ことに合計特殊出生率が潜在的な人口置き換え水準を大きく割り込んでおり，この状態が長期にわたって続くようなことがあれば，その経済的，社会的影響は測り知れないものがある．本研究所では，すでに第６次（昭和47年），第７次（昭和52年）調査の分析その他を通じて，最近の出生率が主として若い世代の結婚パターン，出生意欲，出生抑制行動の変化に大きく左右されるとの判断を得ることができた．そこで今回の第８次調査は，この若い世代の結婚，出生目標，出生抑制行動の人口学的，社会経済学的要因の解明を通じて，わが国出生力の将来動向を的確に把握することも目標のひとつとした．そのため，今回は従来通りの夫婦出産力調査に加えて，独身の男女に対する調査を併せて実施し，若い世代の結婚観，子供観の把握に努めることとした．

〔調査の対象および客体〕

この第８次出産力調査は，無作為抽出法により抽出された調査区内に居住する妻の年齢50歳未満の夫婦と，18歳以上35歳未満の独身の男女を調査対象とする．

標本抽出は，昭和57年度に実施された厚生行政基礎調査の調査地区（全国で1,800地区）から325調査地区を無作為抽出し，その地区内に居住する妻の年齢50歳未満の夫婦（約9,800組）と18歳以上35歳未満の独

身の男女（約6,900人）を調査客体としている.

〔調査事項〕

夫婦票

1. 夫婦の結婚に関する事項
2. 夫婦の社会経済的属性に関する事項
3. 夫婦の両親の社会経済的属性に関する事項
4. 夫婦の妊娠，出産歴に関する事項
5. 夫婦の出生に対する意識に関する事項

独身者票

1. 本人の社会経済的属性に関する事項
2. 両親の社会経済的属性に関する事項
3. 結婚に関する事項
4. 子供に関する事項
5. 出生抑制知識に関する事項

〔調査方法〕

この調査は，人口問題研究所が厚生省大臣官房統計情報部，都道府県，政令指定都市，および保健所の協力を得て，厚生行政基礎調査と同時に実施したもので，調査は配票自計，密封回収方式で行った.

なお，調査票の回収数は夫婦票が 8,740，独身票が 5,334 であった.

日本統計学会第50回大会

昭和57年度（第50回）の日本統計学会総会および研究報告会は，7月23日（金）から25日（日）までの3日間にわたり，千葉大学（千葉市弥生町）において開催された.

本年も7題に上る共通テーマを始め，盛り沢山のプログラムが組まれたが，そのうちの「国勢調査の実施とその結果の評価」（座長：龍谷大学・上田尚一）には，本研究所の会員も積極的に参加し，活発な討論を行った．このテーマに関する報告は次の4題であった.

国勢調査の精度に関する一考察……山田　茂（九州大）
国勢調査の完全性：評価の方法と結果……伊藤達也（人口問題研）
センサス生存率法による府県間純移動率の分析……岡崎陽一（人口問題研）
国勢調査結果の評価……大友　篤（宇都宮大）

このほかにも，とくに「人口統計」に関する部会が設けられたが，他部会の研究報告のなかのものをも含めて，人口に関連のある報告を列挙してみると次のようである.

〔人口統計〕

都道府県別にみた近年の地域出生力の比較分析……山口喜一（人口問題研）
結核死亡率とその性比……臼井竹次郎（元公衆衛生院）
緒方　昭（福井医大）
ほか
適用例から見いだされた人口重心および人口中心点の性質について……鈴木啓祐（流通経済大）
藤原史之（芙蓉情報）
ほか
都道府県別障害者概数調査結果報告……大橋隆憲（花園大）
E.C.ローズの人口成長曲線とその適用方法について……高木尚文（帝京大）